



# ロータリーに輝きを

週報

2014~2015 年度 RI 会長      ゲイリー C.K. ホアン  
 RI 第 2730 地区ガバナー      田中 俊實  
 鹿児島市内分区ガバナー補佐      上田 耕平・小園 弘巳

## 鹿児島東南ロータリークラブ

会長 井料 長敏    副会長 飯野 和男    幹事 川崎 芳明  
 (例会日、場所) 毎週火曜日、鹿児島市与次郎一丁目8-10  
 サンロイヤルホテル    Tel 099-253-2020  
 (事務局) 〒890-0062 鹿児島市与次郎一丁目8-10  
 サンロイヤルホテル4F    Tel 259-6855    Fax 259-1622

E-Mail [info@tounanrc.jp](mailto:info@tounanrc.jp) ホームページ <http://www.tounanrc.jp/>

第 2204 回      No.18  
 平成 26 年 11 月 11 日 (火)  
 本日のプログラム 安満良明パストガバナー  
 卓話

### 第 2203 回例会報告

#### 会長挨拶

会長 井料長敏

みなさん、こんにちは。9月30日午前上田がバナー補佐、飯野副会長、川崎幹事、井料の4名で県庁を訪問し布袋嘉之副知事に平成27年1月9日に行われる鹿児島市内ロータリークラブ新春合同例会の卓話をお願いしてきました。布袋副知事は10月の2730地区大会に来ていただいたのでロータリーのことはよく分かっていました。特に END POLIO の事について尋ねられました。11月3日のおはら祭りに日本赤十字社とローターアクトが共同で踊り連に参加して元気よく踊りまわりました。参加の皆様大変おつかれさまでした。

#### 会務報告

- 鹿児島南 RC 主催「児童虐待シナリオ」のご案内が届いております。日時：11月15日(土)13時30分受付14時～15時30分。場所：みなみホール。特別講演：居場所のない子どもたち～虐待を受けた子供の自立支援の課題～。鹿児島東南ロータリークラブも協賛しています。
- 11月25日(火)の例会は、11月26日(水)志学館大学模擬面接へ日程変更です。
- 12月16日(火)は、クリスマス家族例会です。

#### ゲスト・ビジター紹介

米山奨学生 ハン・サリナさん



#### 奨学金授与

#### 出席報告

会員数	29名	前々回出席者	17名
出席免除	2名	メイクアップ	3名
出席会員	15名	出席訂正率	74.07%
出席率	55.5%		

#### スマイル報告

☆柿元敬一君一誕生日の御祝い頂きまして有難うございます。宮若全国俳句大会にて奨励賞を頂き福岡で賞状頂き喜んでいただいております。

作品句 朴の花 風が大きく 咲かせをり

☆別府雅之君—35 回目の結婚祝いです。ありがとうございます。  
ざいます。

本日計 5,000 円 累計 141,000 円

**本日のプログラム**    **ロータリー財団委員会**



**野井倉委員長**

「ロータリー米山記念奨学会のはじまり」

現在、日本のロータリーは、個人で、クラブで、地区で、そして国際ロータリーやロータリー財団のプログラムを通じて、さまざまな活動をしています。そんな中であって、日本のロータリー独自の活動としては、「ロータリー米山奨学金」を第一に挙げる事ができるでしょう。この奨学金の名前は、もちろん日本のロータリーの創始者である米山梅吉氏に由来するものです。第2次世界対戦中に国際ロータリーから脱退した日本のロータリーは、1949年に復帰しましたが、残念ながら、米山梅吉氏は、それを待たずに、この世を去りました。米山奨学金の制度はどのようにして生まれたかは、『東京ロータリークラブ 50年のあゆみ』に見ることができます。1952～53年度の会長は古沢丈作、就任早々、会員はその誕生日の週間の例会に、夫人を同伴しようと、フェミニストぶりを発揮しての提案で、会員をびっくりさせたり、又、1953年3月15日の例会では、例会時間の15分延長を即決する離れ業を演じたものである。前者は実行されず、後者も永続させずに終わったが、彼が残した業績の中で、米山基金の設定は燦として輝いている。これは、米山梅吉が、生前、東南アジアに深い関心を持っていたことから、ロータリー財団の奨学制度に模して、年2名の奨学生を、アジア諸国から招致しようとする計画であった。米山奨学制度は、1952年12月3日に、成案が可決され、翌年の2月25日に、募金計画が決定し、目標を260万円において、会員及び会員関係事業所から、2年継続の拠金が募られた。面白いことに、その寄付第一号は、アメリカ人から寄せられた。当時、わが例会の“常連”で、バージニア州

のロータリー、ウイリー・ルソンが、3月15日の例会で寄付してくれたものである。国際奨学事業の発足には、まことに相応しい情景であった。もうおわかりのことと思います。米山奨学金は、最初、東京ロータリークラブのプログラムとして始まったのです。当時は、米山基金という名称で呼ばれていました。現在、日本が誇るべき、この米山奨学金の第1号の寄付者が日本人ではなく、アメリカ人であったことは、あまり知られていないでしょう。現在では、海外から日本に留学している学生の中から、奨学生を選んでいますが、最初は、現地で留学生を選考し、その後、学生が勉学のために来日しました。この米山奨学生の第一号、いろいろところで紹介されていますので、ご存じの方も多いと思いますが、タイのソムチャート・ラチャチャ氏です。『ロータリー米山記念奨学会史』には、バンコクのロータリーでは国際奉仕委員長ギールミデン氏 (N. Geelmyden)、ついでプレムプラチャト殿下 (Prince Prempurachatra) が中心になって、米山基金による対日留学生の選考が慎重に進められた。その結果、バンコク近郊バンソクノカワット農業大学を卒業したソムチャート・ラチャチャ君が最終的に選ばれて推薦されたのであった。当時25歳のソムチャート君は養蚕学、果実の栽培と保存を日本で勉強したいと伝えてきた。それは歓迎すべき第1号の留学生ではあったが、委員たちの苦労も始まった。日本の大学への入学手続き、渡航、入国の世話など、クリアしなければならない難事がたくさんあった。たとえば、旅費の外貨払いにしても、当時は大蔵大臣 (佐藤栄作) に申請し許可を求めなければならないという面倒な時代であったのである。しかし、委員たちの東奔西走の結果、東京大学農学部および大学院に入学許可の内諾が得られた。宿舎は国際学友会からの提供を得、受け入れ態勢が整ったのである。慣れぬ仕事の連続を米山奨学委員たちは、持ち前の奉仕の情熱で乗りきったのだ。と、最初の留学生を迎えるまでの経緯が書かれています。2人目の奨学生も海外で決定し、来日をする事になっていたのですが、実際には、少し状況が変わっています。『東京ロータリークラブ 50年のあゆみ』には、ジョージが来日しないために、余裕が出来た米山基金を、どう活用しようかと考えている折柄、東京大学で水産資源学を勉強していた、インド人学生、P. K. イーパソが、学資杜絶のため、学業半ばで帰国寸前にあることが判ったので、彼



に、米山奨学金を支給することを即決した。同じくイト人学生で、東京水産大学に在学した、A. B. ロイも、つづいて、米山奨学生に採用した。米山奨学事業は、もし成功すれば、これに、他のロータークラブの参加を求め、ゆくゆくは、全国的事業に発展させたいというのが、当初からの構想であった。ソムチャートを通じて、タイのローターと結び得た喜びもさることながら、二人のイト人学生を“現地採用”することによって、新しい奨学制度が生まれ、それによって、より計画的に、米山奨学事業を推進出来る見通しがついたのである。これならば成功するとの自信を得たので、他クラブへの呼びかけが始められた。その結果、当時第60及び62地区では、この東京クラブの奨学事業を継承するために、1956年地区大会に於て、その支持を決議した。即ち、地区内ロータークラブは、会員一人当たり、年600円の寄付を決定したのである。翌年、米山奨学会が設立され、初代委員長には、常に蔭にありながら、この事業の真の推進者であった、小林雅一が就任した。この米山奨学会は、関西以西のロータークラブが、ぞくぞくと参加するに到って、名実共に、日本のローターの大事業となった。1967年7月には、財団法人ローター米山奨学会となり、今や、米山奨学生数が年100名という、一大国際奨学事業となっている。と、その事情が載っています。このようにして、米山奨学金は、東京RCの活動から、日本全国のロータークラブの活動へと発展をしていくこととなりました。前出の『ローター米山記念奨学会史』には、東京RCの「米山基金」による奨学制度は3名の留学生への給付終了をもって終結することになった。前節で紹介したソムチャート、イペン、ロイの諸君であった。もともと米山基金設立当初から、この国際事業は全国のロータークラブ全体の活動としての展開が考えられていたのである。であるから、「米山基金の終結」とはいったが、3名の留学生への援助を成し遂げたという実績をもって、新たな展開が模索される時期が到来したといい直すほうがよいだろう。と書かれています。さらに、1957(昭和32)年9月、新組織のための試案が穂積重威によって24条にまとめられた。それに対して、9月18日に招集された第60地区および第62地区内の各クラブ会長による熱心な審議が行われ、新組織が決定された。新組織は名称を「ローター米山奨学委員会」とし

た。そして同委員会では将来、財団法人に組織されることを前提として規約化されたのであった。委員は参加クラブから、会員数50名または26名以上の端数につき、米山奨学委員を1名選出することとし、常務委員を委員の互選により、委員長ほかの役員は常務委員による互選によって選ぶことになった。東京RCの小林雅一が初代委員長となり、初期メンバーが選出された。(中略)そして、ローター米山奨学委員会規約の主要点は、次のように決定された。

<目的> 主旨において、あとの財団法人ローター米山記念奨学会と同様であるが、(1)外国からの招致を主体とし、在日留学生を第二義的に取り扱う(2)ロータークラブの推薦を必須条件とするという内容で、現行の制度とは少し違っている。しかし、実際の運営面では在日留学生のみが選考対象とされた。また奨学期間は2年と規定され、場合により延長を認めることになった。これは「米山基金」による奨学経験が生かされた結果であった。このような規約を決定したうえで、1957年12月18日に第1回の常務委員会が開催された。この時の収支決算報告書によると、当時すでに第350、355および360区に分割されていた旧第60および62区からの寄付金合計額は153万1,200円に達し、利息収入を加えると収入総額は154万3,215円になった。と、現在の「ローター米山記念奨学会」ができるまでの経緯について触れています。記念すべき最初の奨学生は、アブ・シード・ハメット・シヒート(パキスタン<現、パキスタン>/東京工業大学繊維工学科)、ニュオン・グ・イ(ベトナム/京都大学物理学科)、ヘルマン・スカルマン(イトネア/東京医科歯科大学)、セルグション(フィリピン/東京工業大学理工科)、陳普章(香港/九州大学薬学科)、サン・ジヤン(台湾/東京大学電気工学科)、S.S.ジヤン(セイロン<現、スリランカ>/東京大学農業工学科)、スポット・テジャロー(タイ/早稲田大学商学部)です。東京RCが初めて米山奨学生を誕生させてから50年の歳月がたちましたが、今では、日本でなくてはならない奨学事業として成長しました。ローター米山記念奨学会では、その折々の社会的背景やさまざまな事情を反映し、その制度を変更してきました。新しい時代にふさわしい奨学事業にすべく、さまざまな視点からの見直しが進められています。新しい制度は2006年にスタートします。



引用文献 東京ロータークラブ創立 50 周年記念事業委員会『東京ロータークラブ 50 年のあゆみ』1970 年ロータリー米山記念奨学会史委員会編『ロータリー米山記念奨学会史 1967～1992』 1992 年『ロータリーの友』2005 年 3 月号から。

誕生日おめでとうございます



<鹿児島東南ローターアクトクラブ おはら祭り報告>  
2014 年 11 月 3 日 (日) 本踊りに参加致しました。  
2730 地区内より 20 名のローターアクトが参加し、楽しく踊りました。



<東南ローターアクトクラブ例会>

11 月 29 日 (土) 20 時～ (於：青少年会館)

☆記帳メーキャップ受付			
11/18(火) 上田がバナー補佐訪問 模擬面接準備 理事会 12 時～	11/25(火) →11/26(水)へ 志学館大学模擬面接	12/2(火) クラブ総会 会長エレクト承認	
月/日	クラブ	例会場	プログラム(△変更)
11/12 (水)	鹿児島南	サンロイヤル	☆夜間例会外部卓話 NPO 法人残していきたいかごつま弁 理事長橋口満様
	鹿児島西	山形屋	クラブフォーラム
	鹿児島西南	ゆうづき	フリーキンク'
11/13 (木)	鹿児島東	山形屋	☆鹿児島中央 RC との合同例会 10 日(月)へ変更
	鹿児島北	インプラントホテル	☆15 日(土)14 時～15 時へ変更。「児童虐待シンポジウム」
	鹿児島サザンランド	鹿児島東急イン	クラブフォーラム
11/14 (金)	鹿児島	山形屋	定例夜間例会
11/17 (月)	鹿児島中央	山形屋	国際奉仕フォーラム
11/18 (火)	鹿児島城西	鹿児島東急イン	小園がバナー補佐訪問